

右官報、後ハ縣廳其他トニ別ニ下付不相成候條需用ノ分ハ本年第二十二号達第七條但書ノ通應費ヲ以テ購求可致儀ニ有之候此旨及回答候也  
十六年六月六日  
府

四月十六日

新聞紙條例ヲ改正ス

布告 大改大臣署名

新聞紙條例

第一條 新聞紙ヲ發行セントスル者ハ其發行所ノ

管轄廳東京府 警視廳ハヲ經由シテ内務卿ニ願出テ准許

ヲ受ク可シ

時々ニ刷行スル雜誌雜報ノ類ハ皆此條例ニ依ル

第二條 新聞紙發行ノ願書ハ左ノ事項ヲ掲ケ持主

若クハ社主ヨリ差出ス可シ

一 題號

二 記載ノ種目 政治 法律 農工 商業 學ノ類

三 刷行ノ定期又ハ無定期 毎日 每週 毎月 又ハ無定期ニシテ逆号發行スル者



四 發行所及印刷所

五 持主若クハ社主及編輯人印刷人ノ屬籍身不

氏名年齢住所

第三條 社長幹事其他何等ノ名義ヲ以テスルニ拘

ラス新聞紙ニ署名スル者ハ総テ持主社主ノ例ニ

依ル

第四條 新聞紙ノ題号記載ノ種目又ハ持主社主ヲ変更

セントスルトキハ更ニ管轄廳東京府ハヲ經由シ

テ内務卿ニ願出テ准許ヲ受ク可シ

前項ノ外第二條ノ願書ニ掲ク可キ事項ニ於テ要

更アルトキハ七日以内ニ管轄廳東京府ハニ届出

ツ可シ

第五條 持主若クハ社主死去シ又ハ法律上其資格

ヲ失ヒタルトキハ假ニ持主社主ヲ定メテ新聞紙

ヲ發行スルコトヲ得但七日以内ニ管轄廳東京府

廳ヲ經由シテ内務卿ニ願出テ准許ヲ受ク可シ

第六條 編輯人印刷人ハ互ニ相兼ヌルコトヲ得ス

第七條 内國人ニシテ滿二十歳以上ノ男子ニ非ヤ

レハ持主社主編輯人印刷人トナルコトヲ得ス

公権ヲ剝奪セラレタル者持主社主編輯人印刷人

トナルコトヲ得ス公権ヲ停止セラレ及演説ヲ禁

止セラレタル者其停止禁止間亦同シ

第八條 新聞紙ノ發行ヲ願出ツルトキハ保證トシ

テ左ノ金額ヲ納ム可シ但專ラ學術技術統計及官

令又ハ物價報告ニ係ル者ハ此例ニ在ラス

一 東京ニ於テハ千圓



一 京都大坂横濱兵庫神戸長崎ニ於テハ七百圓  
一 其他ノ地方ニ於テハ三百五拾圓

第九條 保證金ハ持主若クハ社主ヨリ為替方又ハ  
銀行ノ預手形或ハ時價ニ準シタル公債證書ヲ以

テ管轄廳東京府ニ納ム可シ  
新聞紙ノ発行ヲ廢止シ又ハ禁止セラレタルトキ

ハ保證金ヲ還付ス

第十條 新聞紙發行ノ准許ヲ得タル日ヨリ五十日  
ヲ過キテ発行セサルトキハ其准許ノ効ヲ失フ  
者トス

刷行ノ定期ニ発行セサルトキハ七日以内ニ休業  
ノ旨ヲ管轄廳東京府ニ届出ツ可シ休業届出ノ

日ヨリ五十日ヲ過キテ再ニ発行セサル者亦前項  
ニ同シ

無定期ノ新聞紙前号刷行ノ日ヨリ五十日ヲ過キ  
テ発行セサル者亦同シ

第十一條 新聞紙ハ每号ニ持主若クハ社主及編輯  
人印刷人ノ氏名并発行所ヲ記載ス可シ

第十二條 発行所ノ外ニ於テ發賣スル者ハ其發賣  
所及發賣人ノ氏名住所ヲ管轄廳東京府ニ届出  
ツ可シ

第十三條 新聞紙ハ其刷行毎ニ先ツ内務省ニ二部  
管轄廳東京府及本管轄廳東京府ニ各一  
部ヲ納ム可シ

第十四條 新聞紙ニ記載シタル事項治安ヲ妨害シ

明治十六年



又ハ風俗ヲ壞乱スル者ト認ムルトキハ内務卿ハ其発行ヲ禁止若クハ停止スルコトヲ得

第十五條 各地方東京府於テ発行スル新聞紙前條ニ觸ル、者ト認ムルトキハ府知事縣令ハ其發行ヲ停止シ内務卿ニ具狀シテ其指揮ヲ請フ可シ

第十六條 新聞紙ノ発行ヲ禁止若クハ停止シタルトキハ内務卿ハ其新聞紙ヲ差押ヘ又ハ發賣ヲ禁止其情重キ者ハ印刷器ヲ差押フルコトヲ得府知事縣令ニ於テ停止ヲ命シタルトキハ其新聞紙ヲ差押ヘ及發賣ヲ禁ムルコトヲ得ルモ内務卿ノ指揮ニ非サレハ印刷器ヲ差押フルコトヲ得ス

第十七條 一人又ハ一社ニシテ數個ノ新聞紙ヲ發行スル者一個ノ新聞紙ヲ停止セラレタルトキハ其停止中他ノ新聞紙ヲ發行スルコトヲ得ス

第十八條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ関スル犯罪ハ持主社主編輯人印刷人及筆者譯者ハ共犯ヲ以テ論ス

第十九條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ関スル犯罪ハ其情狀ニ因リ裁判官ニ於テ犯罪ニ係ル新聞紙ヲ沒收スルコトヲ得

其告訴告發ヲ為スニ際シ豫審判事檢察官警察官ハ裁判確定ニ至ル迄犯罪ニ係ル新聞紙ヲ差押フルコトヲ得

第二十條 裁判確定ノ日ヨリ七日以内ニ裁判費用

公文類聚 明治十六年



及罰金ヲ納完セス又ハ損害ヲ賠償セサルトキハ  
保證金ヲ以テ之ニ充ツ可シ仍ホ足ラサルトキハ  
刑法第二十七條及第四十七條ニ依ル

保證金ヲ以テ裁判費用賠償及罰金ニ充テタルト  
キハ持主若クハ社主ハ管轄廳東京府ハ通知ヲ  
得タル日ヨリ七日以内ニ其欠額ヲ納完ス可シ若  
シ納完セサルトキハ其新聞紙發行准許ノ効ヲ失  
フ者トス

第二十一條 准許ヲ得ス又ハ効ヲ失ヒタル後私ニ  
新聞紙ヲ發行スル者ハ持主社主編輯人印刷人各  
六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處レ貳拾回以上貳  
百回以下ノ罰金ヲ附加シ仍ホ其發行シタル新聞  
紙ヲ沒收ス其禁止停止ノ處示ヲ犯シ及第十七條

ニ違テ發行シタル者亦同シ  
第二十二條 詐偽ノ願書若クハ屈書ヲ差出シタル  
者及第四條第一項第五條ニ違フ者ハ持主若クハ  
社主一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處レ貳拾回以  
上貳百回以下ノ罰金ヲ附加ス編輯人印刷人情ヲ  
知ル者亦同ク處断ス  
前項ノ場合ニ於テ内務卿ハ其新聞紙ノ發行ヲ禁  
止若クハ停止スルコトヲ得

第二十三條 第四條第二項及第十條第二項第十一  
條第十二條第十三條ニ違フ者ハ持主若クハ社主  
拾回以上百回以下ノ罰金ニ處ス其第十一條ニ違  
フ者ハ編輯人印刷人亦同ク處断ス

第二十四條 禁止セラレタル新聞紙ノ持主社主編  
明若十六年



輯人印刷人ハ禁止ノ日ヨリ二年間持主社主編輯人印刷人トナルコトヲ得ス犯ス者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

停止セラレタル新聞紙ノ持主社主編輯人印刷人ハ停止間他ノ新聞紙ノ持主社主編輯人印刷人トナルコトヲ得ス犯ス者ハ罰前項ニ同シ

第二十五條 沒收若クハ差押ノ處分ヲ受ケ又ハ發賣ヲ禁止セラレタル後其新聞紙ヲ發賣又ハ頒布シタル者ハ發賣者頒布者受賣者ヲ問ハス各拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 新聞紙ニ記載シタル事項ハ其原稿ヲ刷行ノ日ヨリ三週間保存シ官署ノ訊問ニ備フ可

シ違フ者ハ編輯人拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付官署ヨリ其出所ノ訊問ヲ受ケタルトキハ之ヲ證明スハシ違フ者ハ編輯人罰前條ニ同シ

第二十八條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付裁判ヲ受ケタルトキハ其新聞紙ニ於テ直ニ宣告ノ全文ヲ掲載ス可シ違フ者ハ編輯人罰前條ニ同シ

第二十九條 新聞紙ニ記載シタル事項ノ錯誤ニ付關係アル者ヨリ正誤ヲ求メタルトキハ其求ヲ得タルヨリ次回又ハ第三回ノ刷行ニ於テ別ニ一欄ヲ設ケ正誤ノ文ヲ掲載シ又ハ正誤ス可シ違フ者ハ編輯人罰前條ニ同シ但其正誤ノ趣意法律ニ觸



ル、者及之ヲ求メタル者ノ氏名詳テラサルトキハ此限ニ在ラス

第三十條 他ノ新聞紙ヨリ抄録セシ事項ニシテ其新聞紙ニ正誤ヲ載セタルトキハ關係アル者ノ求ナシト雖モ其新聞紙ヲ得タルヨリ次回又ハ第三回ノ刷行ニ於テ正誤スヘキコト總テ前條ノ例ニ依ル

第三十一條 式ニ依リ宣布セサル公文及上書建白請願書ハ當該官司ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ記載スルコトヲ得ス違フ者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ三拾回以上三百回以下ノ罰金ヲ附加ス

其大意ヲ録シ若クハ草按ヲ掲載スルモ亦同シ

第三十二條 官省院ノ議事及府縣會ノ傍聽ヲ禁シタル議事ハ詳略ニ拘ラス之ヲ記載スルコトヲ得ス違フ者ハ罰前條ニ同シ

第三十三條 重罪輕罪ノ豫審ハ公判ニ付セサル以前ニ之ヲ記載スルコトヲ得ス裁判官審判ノ議事及傍聽ヲ禁シタル訴訟ノ辯論ハ之ヲ記載スルコトヲ得ス違フ者ハ罰前條ニ同シ

第三十四條 陸軍卿海軍卿ハ特ニ命令ヲ下シテ軍隊軍艦ノ進退及一般ノ軍事ヲ記載スルコトヲ禁スルコトヲ得其禁ヲ犯ス者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ三拾回以上三百回以下ノ罰金ヲ附加ス其情重ト者ハ印刷器ヲ沒收ス  
外務卿ハ外交上ノ事件ニ付特ニ命令ヲ下シテ記



載ヲ禁スルコトヲ得其禁ヲ犯ス者ハ罰前項ニ同シ

第三十五條 新聞紙ヲ以テ人ヲ教唆シ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者ハ刑法ノ例ニ依ル其教唆ニ止マ  
ル者ハ本刑ニ二等又ハ三等ヲ減ス

第三十六條 刑法第二編第一章ノ刑ニ觸ル者ハ印刷器ヲ沒收ス

第三十七條

政體ヲ變壞シ朝憲ヲ紊亂セントスル

ノ論說ヲ記載シタル者ハ一年以上三年以下ノ輕

禁錮ニ處シ百回以上三百回以下ノ罰金ヲ附加ス

其第三十五條ニ觸ル者ハ重ニ從テ處断ス

本條ヲ犯ス者ハ其印刷器ヲ沒收ス

第三十八條 成法ヲ誹毀シテ國民法ニ遵フノ義ヲ

亂ル者及顯ハニ刑律ニ觸レタル罪犯ヲ曲庇スル  
ノ論ヲ為ス者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處  
シ或拾回以上百回以下ノ罰金ヲ附加ス

第三十九條 猥褻ノ文辭圖畫及誹謗ヲ寓シタル戲

畫ヲ掲載スルコトヲ得ス犯ス者ハ或拾回以上百

回以下ノ罰金ニ處ス

第四十條 第二十九條ノ場合ニ於テ被害者ノ私事

ニ係ル者ハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第四十一條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首

減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第四十二條 外國ノ新聞紙及書籍ヲ譯出シ新聞紙

ニ記載スル者亦此條例ニ依ル

附則

明治十六年



現今發行ノ新聞紙ハ東京府下ハ此條例發布ノ日ヨリ其他ノ地方ハ到達ノ日ヨリ三十日以内ニ此條例ニ後ニ願書及保證金ヲ管轄廳東京府ハ警視廳ニ差出ス可シ若シ期限内ニ差出サ、ルトキハ准許ノ効ヲ失フ者トス其願書及保證金ヲ差出シタル者ハ引續キ發行スルコトヲ得

参事院稟議

現行ノ新聞紙條例ハ明治八年六月ニ制定セラレタル者ナリ當時事創始ニ屬シテ未タ經驗ノ功ヲ積マス故ニ條項ニ遺漏アリ刑罰當ヲ得サル者アリ行文簡約ニ過キ往々法網ヲ脱スルノ患アルニ至ル且爾來社會ノ風潮一變シ動モスレハ詭激ノ論說ヲ以是非ヲ乱ル者アリ無根ノ說ヲ唱ヘテ人ヲ煽動スル者

アリ其他弊害一ニシテ止マラス是ニ由テ之ヲ歷年ノ經驗ニ照徴シ條項ノ遺漏アル者ハ之ヲ増補シ刑罰ノ當ヲ得サル者ハ之ヲ改メ行文ノ簡短ナル者ハ之ヲ詳悉ナラシメタリ依テ別紙ノ通御布告相成可然我上申候也十六年三月廿八日。本條例内閣ニ於テモ亦取調アリ内閣取調系ヲ以テ元

新聞紙條例

第一條 凡新聞紙ヲ發行セントスル者ハ此條例ヲ遵奉シ其發行所ノ管轄廳東京府下ハ警視廳ヲ經由シテ内務卿ニ願出テ准許ヲ受ク可シ  
允定期ニ刷行スル雜誌雜報ノ類ハ皆此條例ニ依

第二條 新聞紙發行ノ願書ハ左ノ事項ヲ掲テ持主



若クハ社主ヨリ差出ス可シ

一 題號

二 論説及記事ノ種目

三 刷行ノ定期 毎月毎週  
毎月ノ類

四 発行所及印刷所

五 持主若クハ社主及編輯人印刷人ノ属藉身分  
氏名年齢居所

第三條 新聞紙ニ署名スル者ハ社長幹事其他何等  
ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス然レ持主社主ノ例ニ  
依ル

第四條 新聞紙ノ題号論説記事又ハ持主社主ヲ變  
更セントスルトキハ更ニ管轄廳 東京府下  
警視廳ヲ經由  
シテ内務卿ニ願出テ准許ヲ受ク可シ

前項ノ外第二條ノ願書ニ掲ク可キ事項ニ於テ變  
更アルトキハ七日以内ニ管轄廳 東京府下  
警視廳ニ届出  
ツ可シ

第五條 持主若クハ社主死去シ又ハ法律上其資格  
ヲ失フトキハ假ニ持主社主ヲ定メテ新聞紙ヲ發  
行スルコトヲ得此場合ニ於テハ七日以内ニ管轄  
廳 東京府下  
警視廳ヲ經由シテ内務卿ニ願出テ准許ヲ受  
ク可シ

第六條 持主若クハ社主及編輯人印刷人ハ互ニ相  
兼ヌルコトヲ得ス

第七條 内國人ニシテ滿二十歳以上ノ男子ニ非サ  
レハ持主若クハ社主及編輯人印刷人トナルコト  
ヲ得ス



利奪公権及停止公権中ノ者亦前項ニ全シ

第八條 新聞紙發行ヲ願出ツルトキハ保証トシテ

左ノ金額ヲ納ム可シ但專ラ學術技術及官令又ハ

物價報告等ニ係ル新聞紙ハ此限ニ在ラス

一東京府京都府大坂府ニ於テハ千五百圓

一神奈川縣兵庫縣ニ於テハ千圓

一其他ノ諸縣ニ於テハ五百圓

一一週間ニ回以下發行スル者ハ孰レノ地ヲ問ハ

ス三百圓

第九條 保証金ハ持主若クハ社主ヨリ驛遞局貯金

預所又ハ國立銀行ノ預手形ヲ以テ管轄廳東京府

下警廳ニ納ム可シ

新聞紙ヲ發業シタルトキハ保証金ヲ還付ス

第十條 新聞紙發行ノ准許ヲ得タル日ヨリ五十日

ヲ過キテ之ヲ發行セサルトキハ其准許ヲ失フ者

トス

刷行ノ定期ニ發行セサルトキハ其定期迄ニ休業

ノ旨ヲ届出ツ可シ休業届出ノ日ヨリ五十日ヲ過

シテ再ニ發行セサル者亦同シ

第十一條 新聞紙ハ每紙毎冊ニ持主若クハ社主及

編輯人印刷人ノ氏名并發行所ヲ記載ス可シ

第十二條 發行所ノ外ニ於テ販賣スル者ハ其販賣

所及販賣人ノ氏名住所ヲ管轄廳東京府

下警廳ニ届出

第十三條 新聞紙ハ其刷行毎ニ先ツ内務省ニ二部

管轄廳東京府及所管始審裁判所檢事局ニ各一

明治十六年



部ヲ納ム可レ但刷行ノ部數ヲ紙尾ニ附記ス可レ

第十四條 新聞紙ニ掲載シタル事項治安ヲ妨害シ風俗ヲ壞乱シ又ハ人心ヲ蓋惑スル者ト認ムルトキハ内務卿ニ於テ其発行ヲ禁止若クハ停止スルコトヲ得

第十五條 各地方東京府ニ於テ発行スル新聞紙前條ニ觸ル者ト認ムルトキハ府知事縣令假ニ其発行ヲ止メ速ニ内務卿ノ指揮ヲ請フ可レ

第十六條 新聞紙ノ発行ヲ禁止若クハ停止シ又ハ假ニ其発行ヲ止メタルトキハ内務卿府知事縣令ニ於テ其新聞紙ヲ差押フルコトヲ得

第十七條 新聞紙ニ関スル犯罪ハ持主若クハ社主

及編輯人印刷人共犯ヲ以テ論ス其記載ノ事項ニ付テハ筆者譯者寄者亦同レ

第十八條 新聞紙ニ関スル犯罪其情状ニ因リ裁判官ニ於テ犯罪ニ係ル新聞紙ヲ沒收スルコトヲ得其告訴告發ヲ為スニ際シ豫審判事檢察官警察官ハ裁判確定ニ至ル迄犯罪ニ係ル新聞紙ヲ差押フルコトヲ得

第十九條 裁判確定ノ日ヨリ七日以内ニ罰金及裁判費用ヲ納完セス又ハ損害ヲ賠償セサルトキハ保証金ヲ以テ之ニ充ツ可レ但罰金ニ充テ仍ホ足ラサルトキハ刑法第二十七條ニ依ル

保証金ヲ以テ罰金裁判費用及賠償ニ充テタルトキハ管轄廳東京府下ノ通知アリタル日ヨリ七日



以内ニ其欠額ヲ納完ス可シ若シ納完セザルトキハ新聞紙発行ノ准許ヲ失フ者トス

第二十條 准許ヲ得スレテ新聞紙ヲ発行シタル者及第四條第一項ニ違ヒ又ハ禁止停止ノ處分ニ違テ発行シタル者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十回以上貳百回以下ノ罰金ヲ附加シ仍ホ印刷器並發行シタル新聞紙及其得金ヲ沒收ス

第二十一條 新聞紙ニ関シ詐偽ノ願書若クハ屆書ヲ差出シタル者及第四條第二項ニ違フ者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十回以上貳百回以下ノ罰金ヲ附加ス  
前項ノ場合ニ於テ内務卿ハ其新聞紙ノ発行ヲ禁

止若クハ停止スルコトヲ得

第二十二條 第十一條第十二條第十三條ニ違フ者ハ拾回以上百回以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 禁止セラレタル新聞紙ノ持主若クハ社主及編輯人印刷人ハ其禁止ノ日ヨリ二年間新聞紙ノ業ニ従事スルコトヲ得ス犯ス者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十回以上貳百回以下ノ罰金ヲ附加ス

停止セラレタル新聞紙ノ持主若クハ社主及編輯人印刷人ハ停止間新聞紙ノ業ニ従事スルコトヲ得ス犯ス者ハ罰前項ニ同シ

第二十四條 沒收若クハ差押ノ處分ヲ受ケタル後其新聞紙ヲ發賣頒布シタル者ハ發賣者受賣者ヲ



問ハス拾回以上百回以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其賣  
得金ヲ没收ス

第二十五條 新聞紙ニ掲載シタル事項ハ其原稿ヲ  
刷行ノ日ヨリ三月間保存シ其寄書ニ係ル者ハ寄  
書者ノ氏名住所ヲ詳認シ官署ノ訊問ニ備フ可シ  
違フ者ハ拾回以上百回以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 新聞紙ニ掲載シタル事項ニ付官署ヨ  
リ其出所ノ訊問ヲ受ケタル者ハ之ヲ証明ス可シ  
違フ者ハ罰前條ニ同シ

第二十七條 新聞紙ニ掲載シタル事項ニ付裁判ヲ  
受ケタルトキハ直ニ其新聞紙ニ於テ宣告ノ全文  
ヲ掲載ス可シ違フ者ハ罰前條ニ同シ

第二十八條 新聞紙ニ掲載シタル事項ニ付關係ヲ

ル者ヨリ辨白書ヲ寄セ若クハ正誤ヲ求メタルト  
キハ其理由ノ如何ニ拘ラス毎日発行ノ新聞紙ハ  
三日以内ニ其他ノ新聞紙ハ次号ニ於テ雜報ノ首  
部ニ其全文ヲ掲載又ハ正誤ス可シ違フ者ハ罰前  
條ニ同シ其辨白書及正誤法律規則ニ觸ル者及  
辨白書ヲ寄セ又ハ正誤ヲ求メタル者ノ氏名詳テ  
ラサルトキハ此限ニ在ラス  
辨白書ハ其字数原文ノ二倍迄ハ掲載料ヲ求ムル  
コトヲ得ス

第二十九條 他ノ新聞紙ヨリ抄録セシ事項ニシテ  
之ニ辨白書又ハ正誤ヲ載セタルトキハ其辨白書  
又ハ正誤ヲ掲載ス可シ此場合ニ於テハ總テ前條  
第一項ノ例ニ依ル



第三十條 凡外交ニ関シ若クハ軍機ニ関スル事項ハ當該官署ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ掲載スルコトヲ得ス犯ス者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五十圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加シ

第三十一條 凡公文ノ宣布セサル者及官署ニ呈スル文書ハ當該官署ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ掲載スルコトヲ得ス犯ス者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮若クハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス其大意ヲ抄録シ若クハ草按ヲ掲載スル者亦同シ

第三十二條 重罪輕罪ノ豫審ハ公判ニ附セサル以前ニ之ヲ掲載スルコトヲ得ス犯ス者ハ罰前條

ニ同シ

裁判官審判ノ議事及裁判所ニ於テ傍聽ヲ禁シタル訴訟並新聞紙ニ関スル訴訟ノ辯論ハ之ヲ掲載スルコトヲ得ス犯ス者ハ罰前條ニ同シ

府縣會ノ傍聽ヲ禁シタル議事亦同シ

第三十三條 新聞紙ヲ以テ人ヲ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サレノタル者ハ刑法ノ例ニ依ル其教唆ニ止ル者ハ本刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

其罰例ヲ掲ケタル法律規則ヲ犯サレノタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス其教唆ニ止ル者ハ一等又ハ二等ヲ減ス

第三十四條 政体ヲ變壞シ朝憲ヲ紊乱スル論說ヲ掲載シ若クハ無根ノ說ヲ構ヘテ人ヲ煽動シタル

明治十六年



者ハ一年以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ百回以上  
五百回以下ノ罰金ヲ附加ス

第三十五條 成法ヲ誹毀シ又ハ國民法ニ遵フ義ヲ  
乱ル者及犯罪ヲ曲庇スル者ハ二月以上二年以下  
ノ輕禁錮ニ處シ貳拾回以上貳百回以下ノ罰金ヲ  
附加ス

第三十六條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首  
減輕數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

附則

現今發行ノ新聞紙ハ此條例發行ノ日ヨリ三十日以  
内ニ更ニ願書及保証金ヲ管轄廳東京府下  
警視廳ニ差出ス  
可シ若シ期限内ニ差出サ、ルトキハ准許ヲ失フ者  
トス其願書及保証金ヲ差出シタル者ハ未シ准許ヲ

得サルモ引續キ發行スルコトヲ得

内閣取調ノ令

新聞紙條例

第一條 凡新聞紙ヲ發行セントスル者ハ此條例ヲ

遵奉シ其發行所ノ管轄廳東京府  
警視廳ヲ經由シテ内

務卿ニ願書ヲ准許ヲ受ケ可シ

時々ニ刷行スル雜誌雜報ノ類ハ皆此條例ニ依ル

第二條 新聞紙發行ノ願書ハ左ノ事項ヲ掲ケ持主

若クハ社主ヨリ差出ス可シ

一 題號

二 記載ノ種目 政治法律農工  
商業等ノ類

三 刷行ノ定期又ハ無定期 毎日 每週 每月 又ハ無  
定期ニシテ  
逐日發行

者

明治十六年



四 發行所及印刷所

五 持主若クハ社主及編輯人印刷人ノ屬籍身不  
氏名年齢住所

第三條 新聞紙ニ署名スル者ハ社長幹事其他何等  
之名義ヲ以テスルニ拘ラス都テ持主社主ノ例ニ  
依ル

第四條 新聞紙ノ題字記載ノ種目又ハ持主社主ヲ  
変更セントスルトキハ更ニ管轄廳東京府ハヲ經  
警視廳由レテ内務卿ニ願出テ准許ヲ受ク可シ

前項ノ外ニ條ノ願書ニ掲ク可キ事項ニ於テ変更  
アルトキハ七日以内ニ管轄廳東京府ハ  
警視廳ニ届出ツ  
可シ

第五條 持主若クハ社主死去シ又ハ法律上其資格

ヲ失フタルトキハ假ニ持主社主ヲ定メテ新聞紙  
ヲ發行スルコトヲ得但七日以内ニ管轄廳東京府  
警視廳ヲ經由シテ内務卿ニ願出テ准許ヲ受ク可シ

第六條 編輯人印刷人ハ互ニ相兼スルコトヲ  
得ス

第七條 内國人ニシテ滿二十歳以上ノ男子ニ非  
ハ持主社主編輯人印刷人トナルコトヲ得ス  
公権ヲ剥奪セラレタル者ハ持主社主トナルコト  
ヲ得ス

公権剥奪セラレ及演説ヲ禁止セラレタル者ハ編  
輯人印刷人トナルコトヲ得ス公権ヲ停止セラレ  
及演説ヲ停止セラレタル者其停止間亦同シ  
編輯人印刷人ハ保釋中其事務ヲ執ルコトヲ

明治十六年



得

第八條

新聞紙ノ發行ヲ願出ツルトキハ保証トシ

テ左ノ金額ヲ納ム可シ但專ラ學術技術統計及官  
令又ハ物價報告ニ係ル新聞紙ハ此例ニ在ラス

一 東京ニ於テハ千圓

一 京都大坂横濱兵庫神戸長崎ニ於テハ  
七百圓

一 其他ノ地方ニ於テハ三百五十拾圓

一 一月三回以下發行スル者ハ各前項ノ半額

第九條

保証金ハ持主若クハ社主ヨリ為替方又ハ

銀行ノ預手形或ハ時價ニ準シタル公債証書以テ  
管轄廳東京府ハ  
警視廳ニ納ム可シ公債証書ノ時價ハ管  
轄廳ノ指定スル所ニ從フ

新聞紙ノ發行ヲ廢止シ又ハ禁止サレタルトキハ

保証金ヲ還付ス

第十條

新聞紙發行ノ准許ヲ得タル日ヨリ五十日

ヲ過キテ之ヲ發行セサルトキハ其准許ヲ失フ  
者トス

刷行ノ定期ニ發行セサルトキハ速カニ休業ノ旨

ヲ管轄廳東京府ハ  
警視廳ニ届出ツ可シ休業届出ノ日ヨ  
リ五十日ヲ過キテ再ニ發行セサル者亦前項ニ

同シ

無定期ノ新聞紙前号刷行ノ日ヨリ五十日ヲ過キ

テ發行セサル者亦同シ

第十一條

新聞紙ハ每紙毎冊ニ持主若クハ社主編

輯人印刷人ノ氏名及發行所ヲ記載ス可シ

明治六年



第十二條 発行所ノ外ニ於テ發賣スル者ハ其發賣所及發賣人ノ氏名住所ヲ管轄廳東京府警視廳ニ届出ツ可シ

第十三條 新聞紙ハ其刷行毎ニ先ツ内務省ニ二部管轄廳東京府警視廳及本管轄審裁判所檢事局ニ各一部ヲ納ム可シ

第十四條 新聞紙ニ記載シタル事項治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞乱スル者ト認ムルトキハ内務卿ハ其發行ヲ禁止若クハ停止スルコトヲ得

第十五條 各地方東京府除クニ於テ發行スル新聞紙前條ニ觸ル者ト認ムルトキハ府知事縣令ハ其發行ヲ停止スルコトヲ得此場合ニ於テハ速ニ内務卿ノ指揮ヲ請フ可シ

第十六條 新聞紙ノ發行ヲ禁止若クハ停止シタルトキハ内務卿ハ其新聞紙ヲ差押ヘ又ハ發賣ヲ禁止其情重キ者ハ印刷器ヲ差押フルコトヲ得

府知事縣令ニ於テ停止ヲ命シタルトキハ其新聞紙ヲ差押ヘ及發賣ヲ禁スルコトヲ得ルモ内務卿ノ指揮ニ非ナレハ印刷器ヲ差押フルコトヲ得ス

第十七條 一人又ハ一社ニシテ數個ノ新聞紙ヲ發行スル者一個ノ新聞紙ヲ停止セラレタルトキハ其停止中他ノ新聞紙ヲ發行スルコトヲ得ス

第十八條 外國ノ新聞紙及書籍ヲ譯出シ新聞紙ニ記載スル者亦本條例ニ依ル

第十九條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ関スル犯罪

公文書類 明治十六年



ハ持主若クハ社主編輯人印刷人及筆者ハ共犯ヲ以テ論ス譯者ハ筆者ヲ以テ例ス  
持主社主旅行又ハ其他ノ事故ニ因リ其情ヲ知ラサリシトテヲ釋明シ事証明明白ナルトキハ其罪ヲ免ス

第二十條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ関スル犯罪ハ其情状ニ因リ裁判官ニ於テ犯罪ニ係ル新聞紙ヲ沒收スルコトヲ得

其告訴告發ヲ為スニ際シ豫審判事檢察官警察官ハ裁判確定ニ至ル迄犯罪ニ係ル新聞紙ヲ差押フルコトヲ得

第二十一條 裁判確定ノ日ヨリ七日以内ニ犯者裁判費用及罰金ヲ納完セス又ハ損害ヲ賠償セサル

トキハ保証金ヲ以テ之ニ充ツヘシ仍ホ足ラサルトキハ刑法第二十七條及第四十七條ニ依ル保証金ヲ以テ裁判費用賠償及罰金ニ充テタルトキハ持主若クハ社主ハ管轄廳東京府ハ警視廳ノ通知ヲ得タル日ヨリ七日以内ニ其欠額ヲ納完ス可シ若シ納完セサルトキハ新聞紙發行ノ准許ヲ失フ者トス

第二十二條 准許ヲ得ス又ハ准許ヲ失フタル後私ニ新聞紙ヲ發行スル者ハ持主若クハ社主編輯人印刷人各六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾回以上貳百回以下ノ罰金ヲ附加シ仍ホ其發行シタル新聞紙ヲ沒收ス其禁止停止ノ處分ヲ犯シ及第十七條ニ違テ發行シタル者亦同シ

明治十六年



第二十三條 詐偽故造ノ願書若クハ屆書ヲ差出シタル者及第四條第一項ニ違フ者ハ持主若クハ社主ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾回以上貳百回以下ノ罰金ヲ附加ス編輯人印刷人情ヲ知ル者亦同ク處断ス

前項ノ場合ニ於テハ内務卿ハ其新聞紙ノ發行ヲ禁止若クハ停止スルコトヲ得

第二十四條 第四條第二項及第十二條第十三條ニ違フ者ハ持主若クハ社主拾回以上百回以下ノ罰金ニ處ス

第十條第二項ニ違ヒ休業ヲ届出ス及第十一條ニ違フ者ハ持主若クハ社主編輯人印刷人各拾回以上百回以下ノ罰金ニ處ス

第二十五條 禁止セラレタル新聞紙ノ持主若クハ社主編輯人印刷人ハ其禁止ノ日ヨリ二年間新聞紙ノ業ニ従事スルコトヲ得ス犯ス者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十回以上貳百回以下ノ罰金ヲ附加ス

停止セラレタル新聞紙ノ持主若クハ社主編輯人印刷人ハ停止間新聞紙ノ業ニ従事スルコトヲ得ス犯ス者ハ罰前項ニ同シ

第二十六條 没收若クハ差押ノ處分ヲ受ケ又ハ發賣ヲ禁止ナレタル後其新聞紙ヲ發賣又ハ頒布シタル者ハ發賣者頒布者受賣者ヲ問ハス各拾回以上百回以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條 新聞紙ニ記載シタル事項ハ其原稿ヲ



刷行ノ日ヨリ三週間保存シ官署ノ訊問ニ備フ可  
シ違フ者ハ編輯人拾回以上百回以下ノ罰金  
ニ處ス

第二十八條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付官署ヨ  
リ其出所ノ訊問ヲ受ケタル時ハ之ヲ証明スヘシ  
違フ者ハ編輯人罰前條ニ同シ

第二十九條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付裁判ヲ  
受ケタルトキハ其新聞紙ニ於テ直ニ宣告ノ全文  
ヲ掲載スヘシ違フ者ハ編輯人罰前條ニ同  
シ

第三十條 新聞紙ニ記載シタル事項ノ錯誤ニ付関  
係アル者ヨリ正誤ヲ求メタルトキハ其求メ得タ  
ルヨリ次回又ハ第三回ノ刷行ニ於テ雜報ノ首部

ニ正誤ノ文ヲ掲載シ又ハ正誤ス可シ違フ者ハ編  
輯人罰前條ニ同シ但其正誤ノ趣意法律ニ觸ル  
者及之ヲ求メタル者ノ氏名詳ナラサルトキハ此  
限ニ在ラス  
正誤ノ文ハ其字数原文ノ二倍迄ハ掲載料ヲ求ム  
ルコトヲ得ス

第三十一條 他ノ新聞紙ヨリ抄録セシ事項ニシテ  
其新聞紙ニ正誤ヲ載セタルトキハ之ヲ得タルヨ  
リ次回又ハ第三回ノ刷行ニ於テ正誤スヘキコト  
總テ前條第一項ノ例ニ依ル

第三十二條 前二條ノ義務ヲ行ヒタル者ハ刑法ノ  
處分酌量軽減スルコトヲ得

第三十三條 凡ソ公文ノ式ニ依リ宣布セサル者ハ



當該官司ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ記載スル  
コトヲ得ス違フ者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮  
若クハ三十拾回以上三百回以下ノ罰金ヲ附加  
ス  
其全文ヲ録セスレテ大意ヲ抄録スルモ亦  
同シ

第三十四條 官院省ノ議事及府縣會ノ傍聴ヲ禁  
シタル議事ハ詳畧ニ拘ラス之ヲ記載スル  
ヲ得ス違フ者ハ罰前條ニ同シ

第三十五條 上書建白又ハ請願書ハ當該官司ノ許  
可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ記載スルコトヲ得ス違  
フ者ハ罰前條ニ同シ  
其全文ヲ録セスレテ大意ヲ抄録シ若クハ草按ヲ

掲載スルモ亦同シ

第三十六條 重罪輕罪ノ豫審ハ公判ニ付セサル以  
前ニ之ヲ記載スルコトヲ得ス裁判官審判ノ議事  
ハ之ヲ記載スルコトヲ得ス違フ者ハ罰前條ニ同  
シ

第三十七條 新聞紙ニ関スル刑事訴訟ノ辯論ハ之  
ヲ記載スルコトヲ得ス違フ者ハ罰前條ニ同  
シ

第三十八條 戰時平時ヲ論セス陸海軍卿ハ特ニ  
命令ヲ下シテ軍隊軍艦ノ進退及一般ノ軍事ヲ  
記載スルコトヲ禁スルコトヲ得此場合ニ於テハ  
犯ス者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處レ三十  
回以上三百回以下ノ罰金ヲ附加ス其情重キ者ハ



印刷器ヲ没收ス

外交上特別ノ事件ニ付外務卿ハ特ニ命令ヲ下シテ其記載ヲ禁スルコトヲ得犯ス者ハ罰前項ニ同シ

第三十九條 新聞紙ヲ以テ人ヲ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者ハ刑法ノ例ニ依ル其教唆ニ止マル者ハ本刑ニ二等又ハ三等ヲ減ス

第四十條 刑法第二編第一章ノ刑ニ觸ル者ハ印刷器ヲ没收ス

第四十一條 締盟國ノ君主ニ對シ不敬ノ事項ヲ記載シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス拾回以上百回以下ノ罰金ヲ附加ス

第四十二條 締盟國ノ公使ニ對シ侮辱誹毀ノ事項

ヲ記載シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五回以上五拾回以下ノ罰金ヲ附加ス

第四十三條 政体ヲ變壞シ朝憲ヲ紊乱セントスルノ論說ヲ記載シタル者ハ一年以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ百回以上三百回以下ノ罰金ヲ附加ス其第三十九條ニ觸ル者ハ重ニ從テ處断ス本條ヲ犯ス者ハ其印刷器ヲ没收ス

第四十四條 成法ヲ誹毀シテ國民ノ法ニ遵フノ義ヲ乱ル者及頭ハニ刑律ニ觸レタル罪犯ヲ曲庇スルノ論ヲ為ス者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾回以上百回以下ノ罰金ヲ附加ス

第四十五條 諷画及猥褻ノ國画ヲ載スルコトヲ

明治十六年



得ス犯ス者ハ貳拾回以上百回以下ノ罰金ニ處ス

第四十六條 第三十條ノ場合ニ於テ被害者ノ私事ニ係ル者ハ被害者自ラ告訴スルヲ待テ罪ヲ論スヘシ

第四十七條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

附則

現今發行ノ新聞紙ハ東京府下ハ此條例發布ノ日ヨリ其他ノ地方ハ到達ノ日ヨリ三十日以内ニ此條例ニ從ニ願書及保証金ヲ管轄廳東京府警視廳ニ差出ス可シ若シ期限内ニ差出サ、ルトキハ准許ヲ失フ者トス其願書及保証金ヲ差出シタル者ハ未タ准許ヲ得

カレセ引續ト發行スルコトヲ得

元老院ニ達

新聞紙條例改正ノ件

右其院議定ニ被付候事 十六年四月二日

元老院ニ移牒 内閣書記官

本月二日付ヲ以テ御院議定ニ被付候新聞紙條例改正按第七條二項三項中誤寫有之候ニ付左ノ通正誤候條此旨及御通牒候也 十六年四月五日

第二項

公権ヲ剝奪セラレタル者ハ持主社主編輯人印刷人トナルコトヲ得ス

第三項

明治十六年



公権ヲ停止セラレ及演説ヲ禁止セラレタル者ハ其停止禁止間編輯人印刷人トナルコトヲ得ス

元老院稟告

本月二日下付有之候新聞紙條例改正之儀今十三日會議ニ於テ修正ヲ加フヘキニ決シ別冊議定按勅裁ヲ仰キ候為メ御上奏有之度候右ハ修正ノ理由記載上奏可致答ニ候ハ其特ニ至急ヲ要セラレ、ノ按却テ時日ノ費ヘンコトヲ恐レ候ニ付其理由ノ詳細者内閣委員參事院議官水本成美參事院議官補清浦奎吾參事院議官補大森鍾一ヨリ具陳可致因テ此段御領承有之度候也 十六年四月十三日 元老院上奏

本月二日下付セラレレ所ノ新聞紙條例改正之儀今十三日會議ニ於テ修正ヲ加フヘキニ決ス仍テ其修正ノ箇所ヲ朱書シ謹テ之ヲ上奏ス 十六年四月十三日

新聞紙條例

第一條 凡新聞紙ヲ發行セントスル者ハ此條例ヲ遵奉シ其發行所ノ管轄廳東京府ハ警視廳ヲ經由シテ内務卿ニ願出テ准許ヲ受ク可シ  
時々ニ刷行スル雜誌雜報ノ類ハ皆此條例ニ依ル  
第二條 新聞紙發行ノ願書ハ左ノ事項ヲ掲ケ持主若クハ社主ヨリ差出ス可シ

一 題號

二 記載ノ種目 政治法律農工商業等ノ類

三 刷行ノ定期又ハ無定期 毎日 每週 每月 又ハ無定期ニシテ逆号發行

明治十六年



者スル

四 発行所及印刷所

五 持主若クハ社主及編輯人印刷人ノ属籍身系氏名年齢住所

第三條 新聞紙ニ署名スル者ハ社長幹事其他何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス都テ持主社主ノ例ニ依ル

第四條 新聞紙ノ題号記載ノ種目又ハ持主社主ヲ変更セントスルトキハ更ニ管轄廳東京府ハヲ經由シテ内務卿ニ願出テ准許ヲ受ク可シ

前項ノ外第二條ノ願書ニ掲ク可キ事項ニ於テ変更アルトキハ七日以内ニ管轄廳東京府ハニ届出ツ可シ

第五條 持主若クハ社主死去シ又ハ法律上其資格ヲ失フタルトキハ假ニ持主社主ヲ定メテ新聞紙ヲ發行スルコトヲ得但七日以内ニ管轄廳東京府ハニ願ヲ經由シテ内務卿ニ願出テ准許ヲ受ク可シ

第六條 編輯人印刷人ハ互ニ相兼ヌルコトヲ得ス

第七條 内國人ニシテ満二十歳以上ノ男子ニ非ハレハ持主社主編輯人印刷人トナルコトヲ得ス

公権ヲ剥奪セラレタル者ハ持主社主編輯人印刷人トナルコトヲ得ス

公権ヲ停止セラレ及演説ヲ禁止セラレタル者ハ其停止禁止間編輯人印刷人トナルコトヲ得ス

明治十六年



編輯人印刷人ハ保釋中其事務ヲ執ルコト  
ヲ得ス

第八條 新聞紙ノ発行ヲ願出ツルトキハ保證トシ  
テ左ノ金額ヲ納ム可シ但專ラ學術技術統計及官  
令又ハ物價報告ニ係ル新聞紙ハ此例ニ在ラ  
ス

一 東京ニ於テハ千圓

一 京都大阪横濱兵庫 神戸長崎ニ於テハ七  
百圓

一 其他ノ地方ニ於テハ三百五十圓

一 一月三回以下発行スル者ハ各前項ノ半額

第九條 保證金ハ持主若クハ社主ヨリ為替方又  
ハ銀行ノ預手形式ハ時價ニ準シタル公債証書

ヲ以テ管轄廳東京府ハ警視廳ニ納ム可シ公債証書ノ時  
價ハ管轄廳ノ指定スル所ニ從ワ

新聞紙ノ発行ヲ廢止シ又ハ禁止サレタルトキハ  
保証金ヲ還付ス

第十條 新聞紙發行ノ准許ヲ得タル日ヨリ五十日  
ヲ過キテ之ヲ発行セサルトキハ其准許切失フ者  
トス

刷行ノ定期ニ発行セサルトキハ連日七日以内休業ノ旨

ヲ管轄廳東京府ハ警視廳ニ届出ツ可シ休業届出ノ日ヨ  
リ五十日ヲ過キテ再ニ発行セサル者亦前項ニ  
同シ

無定期ノ新聞紙前号刷行ノ日ヨリ五十日ヲ過キ  
テ発行セサル者亦同シ



第十一條 新聞紙ハ毎紙毎冊ニ持主若クハ社主編

輯人印刷人ノ氏名並發行所ヲ記載ス可シ

第十二條 發行所ノ外ニ於テ發賣スル者ハ其發賣

所及發賣人ノ氏名住所ヲ管轄廳東京府警視廳ニ届出

ツ可シ

第十三條 新聞紙ハ其刷行毎ニ先ツ内務省ニ二部

管轄廳東京府警視廳及本管轄審裁判所檢事局ニ各一

部ヲ納ム可シ

第十四條 新聞紙ニ記載シタル事項治安ヲ妨害シ

又ハ風俗ヲ壞乱スル者ト認ムルトキハ内務卿ハ

其發行ヲ禁止若クハ停止スルコトヲ得

第十五條 各地方東京府除クニ於テ發行スル新聞紙前

條ニ觸ル者ト認ムルトキハ府知事縣令ハ其發

行ヲ停止トシコトヲ得此場合ニ於テハ速キト内

務卿ノ指揮ヲ請フ可シ

第十六條 新聞紙ノ發行ヲ禁止若クハ停止シタル

トキハ内務卿ハ其新聞紙ヲ差押ヘ又ハ發賣ヲ禁

シ其情重キ者ハ印刷器ヲ差押フルコトヲ得

府知事縣令ニ於テ停止ヲ命シタルトキハ其新聞

紙ヲ差押ヘ及發賣ヲ禁スルコトヲ得ルモ内務卿

ノ指揮ニ非ナレハ印刷器ヲ差押フルコトヲ得ス

第十七條 一人又ハ一社ニシテ數個ノ新聞紙ヲ發

行スル者一個ノ新聞紙ヲ停止セラレタルトキハ

其停止中他ノ新聞紙ヲ發行スルコトヲ得

ス

第十八條 外國ノ新聞紙及書籍ヲ譯出シ新聞紙



十記載スル者亦本條例ニ依ル

第十九條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ関スル犯罪

ハ持主若クハ社主編輯人印刷人及筆者譯者ハ共犯ヲ以テ論ス譯者ハ筆者ヲ以テ例ス

持主社主旅行又ハ其他ノ事故ニ因リ其情ヲ知テ

免ス

第二十條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ関スル犯罪

ハ其情状ニ因リ裁判官ニ於テ犯罪ニ係ル新聞紙ヲ没收スルコトヲ得

其告訴告發ヲ為スニ際シ豫審判事檢察官警察官ハ裁判確定ニ至ル迄犯罪ニ係ル新聞紙ヲ差押フルコトヲ得

第二十二條 裁判確定ノ日ヨリ七日以内ニ犯罪者裁

判費用及罰金ヲ納完セズ又ハ損害ヲ賠償セサル

トキハ保証金ヲ以テ之ニ充ツ可シ仍ホ足ラサルトキハ刑法第二十七條及第四十七條ニ依ル

保証金ヲ以テ裁判費用賠償及罰金ニ充テタルトキハ持主若クハ社主ハ管轄廳東京府警察廳ノ通知ヲ

得タル日ヨリ七日以内ニ其欠額ヲ納完ス可シ若シ納完セサルトキハ新聞紙發行ヲ准許ヲ失フ者トス

第二十二條 准許ヲ得ヌ又ハ准許ヲ失フタル後私

ニ新聞紙ヲ發行スル者ハ持主若クハ社主編輯人印刷人各六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ或拾回以上貳百回以下ノ罰金ヲ附加シ仍ホ其發行シ



タル新聞紙ヲ没收ス其禁止停止ノ處分ヲ犯シ及  
第十七條ニ違テ発行シタル者亦同シ

第二十三條 詐偽故造ノ領書若クハ届書ヲ差出シ  
タル者及第四條第一項ニ違フ者ハ持主若クハ社  
主ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ或拾回以  
上或百回以下ノ罰金ニ附加ス編輯人印刷人情ヲ  
知ル者亦同ク處断ス

前項ノ場合ニ於テハ内務卿ハ其新聞紙ノ発行ヲ  
禁止若クハ停止スルコトヲ得

第二十四條 第四條第二項及第十二條第十三條ニ  
違フ者ハ持主若クハ社主拾回以上百回以下ノ  
罰金ニ處ス其

第十條第二項ニ違ヒ休業ヲ届出ス者第十一條ニ

違フ者ハ持主若クハ社主編輯人印刷人各拾回  
以上百回以下ノ罰金ニ處ス

第二十五條 禁止セラレタル新聞紙ノ持主若クハ  
社主編輯人印刷人ハ其禁止ノ日ヨリ二年間新聞  
紙ノ業ニ從事スルコトヲ得ス犯ス者ハ三月以上  
三年以下ノ輕禁錮ニ處シ或拾回以上或百回以下  
ノ罰金ヲ附加ス

停止セラレタル新聞紙ノ持主若クハ社主編輯人  
印刷人ハ停止間新聞紙ノ業ニ從事スルコトヲ得  
ス犯ス者ハ罰前項ニ同シ

第二十六條 没收若クハ差押ノ處分ヲ受ケ又ハ發  
賣ヲ禁止ナレタル後其新聞紙ヲ發賣又ハ頒布シ  
タル者ハ發賣者頒布者受賣者ヲ問ハス各拾回以



上百回以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條 新聞紙ニ記載シタル事項ハ其原稿ヲ  
刷行ノ日ヨリ三週間保存シ官署ノ訊問ニ備フ可  
シ違フ者ハ編輯人拾回以上百回以下ノ罰金ニ  
處ス

第二十八條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付官署ヨ  
リ其出所ノ訊問ヲ受ケタルトキハ之ヲ證明ス可  
シ違フ者ハ編輯人罰前條ニ同シ

第二十九條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付裁判ヲ  
受ケタルトキハ其新聞紙ニ於テ直ニ宣告ノ全文  
ヲ掲載ス可シ違フ者ハ編輯人罰前條ニ同シ

第三十條 新聞紙ニ記載シタル事項ノ錯誤ニ付関  
係アル者ヨリ正誤ヲ求メタルトキハ其求ヲ得タ

ルヨリ次回又ハ第三回ノ刷行ニ於テ列ニ一欄ニ設雜報ノ首部  
ニ正誤ノ文ヲ掲載シ又ハ正誤ス可シ違フ者ハ編  
輯人罰前條ニ同シ但其正誤ノ趣意法律ニ觸ル  
者及之ヲ求メタル者ノ氏名詳トラサルトキハ此  
限ニ在ラス

正誤ノ文ハ其字數原文ノ二倍迄ハ掲載ヲ求ムル  
得ル

第三十條 他ノ新聞紙ヨリ抄録セシ事項ニシテ  
其新聞紙ニ正誤ヲ載セタルトキハ同條ノ其新聞紙得タルヨ  
リ次回又ハ三回ノ刷行ニ於テ正誤スヘキコト然  
テ前條第一項ノ例ニ依ル

第三十二條 前二條ノ義務ヲ行ヒタル者ハ刑法ノ  
規定ヲ酌量輕減スルコトヲ得



第三十三條 凡公文ノ式ニ依リ宣布セサル者ハ  
當該官司ノ許可ヲ得ルニ非ナレハ之ヲ記載スル  
コトヲ得ス違フ者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮  
若クハ三十拾日以上三百日以下ノ罰金ヲ附加  
ス

其全文ヲ録セスレテ大意ヲ抄録スルモ亦同  
シ

第三十四條 官省院ノ議事及府縣會ノ傍聴ヲ禁  
シタル議事ハ詳略ニ拘ラス之ヲ記載スルコト  
ヲ得ス違フ者ハ罰前條ニ同シ

第三十五條 上書建白又ハ請願書ハ當該官司ノ許  
可ヲ得ルニ非ナレハ之ヲ記載スルコトヲ得ス違  
フ者ハ罰前條ニ同シ

其全文ヲ録セスレテ大意ヲ抄録シ若クハ草按ヲ  
掲載スルモ亦同シ

第三十六條 重罪輕罪ノ豫審ハ公判ニ付セサル以  
前ニ之ヲ記載スルコトヲ得ス裁判官審判ノ議事  
ハ傍聴ヲ禁ズルコトヲ得ス違フ者ハ罰前條ニ同  
シ

第三十七條 新聞紙ニ關スル刑事訴訟ノ辨論ハ之  
ヲ記載スルコトヲ得ス違フ者ハ罰前條ニ同シ

第三十八條 戰時平時ヲ論ヤル陸海軍卿ハ持ニ命  
令ヲ下シテ軍隊軍艦ノ進退及一般ノ軍事ヲ記載  
スルコトヲ禁ズルコトヲ得ル場合ニ於テハ犯ス  
者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ三十拾日以  
上三百日以下ノ罰金ヲ附加ス其情重キ者ハ印刷



罪ヲ没收ス

外交上特別ノ事件ニ付外務卿ニ持テ命令ヲ下シテ其記載ヲ禁スルコトヲ得犯ス者ハ罰前項ニ同シ

第三十條 新聞紙ヲ以テ人ヲ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サレノタル者ハ刑法ノ例ニ依ル其教唆ニ止マル者ハ本刑ニ二等又ハ三等ヲ減ス

第四十條 刑法第二編第一章ノ刑ニ觸ル者ハ印刷器ヲ没收ス

第四十一條 締盟國ノ君主ニ對シ不敬ノ事項ヲ記載シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ指回以上百回以下ノ罰金ヲ附加ス

第四十二條 締盟國ノ公使ニ對シ侮辱誹毀ノ事項

ヲ記載シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五月以上五拾回以下ノ罰金ヲ附加ス

第四十三條 政体ヲ變壞シ朝憲ヲ紊亂セントスルノ論說ヲ記載シタル者ハ一年以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ百回以上三百回以下ノ罰金ヲ附加ス其第三十九條ニ觸ル者ハ重ニ從テ處断ス本條ヲ犯ス者ハ其印刷器ヲ没收ス

第四十四條 成法ヲ誹毀シテ國民法ニ遵フノ義ヲ亂ル者及頭ハニ刑律ニ觸レタル罪犯ヲ曲庇スルノ論ヲ為ス者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾回以上百回以下ノ罰金ヲ附加ス

第四十五條 諷畫及猥褻ノ圖畫ヲ載スルコトヲ得ス犯ス者ハ貳拾回以上百回以下ノ罰金ニ處

明治十六年



ス

第四十六條 第三十條ノ場合ニ於テ被害者ノ私事

ニ係ル者ハ被害者自ラ告訴スルヲ待テ其罪ヲ

論ス可シ

第四十七條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首

減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第四十二條 外國ノ新聞紙及書籍ヲ譯出シ新聞紙

ニ記載スル者亦此條例ニ依ル

附則

現今發行ノ新聞紙ハ東京府下ハ此條例發布ノ日ヨリ其他

ノ地方ハ到達ノ日ヨリ三十日以内ニ此條例ニ從ヒ願書

及保証金ヲ管轄廳東京府ハ警視廳ニ差出ス可シ若シ期限

内ニ差出ササルトキハ准許ヲ失フ者トス其願書

及保証金ヲ差出シタル者ハ未ク准許ヲ得サルモ

引續キ發行スルコトヲ得